



整備が待たれる東バイパス(東台郵便局付近の交差点)

# 東台地区のバイパス計画は どうなっているの？

リポーター 中嶋 正三さん  
(田代町1区)

新米のリポーターとして、市役所都市開発課の館山課長を訪問し、市街地の通過車両の緩和策とも考えられる、東台地区のバイパス構想などについて伺いました。

この題材を選んだ理由として、  
①今春早々、国道103号大館南バイパスの部分開通(山館池

内間)に伴って、東台方面の通過車両が急増し、その波及として税務署、城南小学校通りと鳳鳴高校、市役所通りなどに車両の行列が目立ってきたこと。

②市街地を通る国道7号と103号は、大館西道路、大館南バイパスとして開通を目指して工事が進んでいること。

③残る東台地区のバイパス整備の促進次第で、市街地の交通渋滞の緩和が一挙に解消できるのではないかと素人考え。

が挙げられます。市では、市制施行後これまでに、昭和四十四年の御成町国道7号バイパス(有浦、釈迦内間)の開通をはじめ、同四十六年の大館駅・東大館線(清水一丁目、市立病院間)開通、同四十八年の国道7号大館バイパス(有浦、市役所間)

開通、同六十一年の樹海ライン全線開通、平成七年の大館西道路側道(片山、沼館間)開通などの道路整備を進めてきた。

しかしながら、車社会ともいわれる今日、交通量が年々激増する一方では、全国的にいくら道路改良や整備を促進しても追いつくことができません。大館においても市民が保有している車は、年間千台の割合で多くなり、現在では一世帯平均一・五台、二人に一台ということとです。これでは交通渋滞が生ずることは当然といえるのではないのでしょうか。

そこで、館山課長から市の交通整備計画マップを卓上いっばいに広げて説明をいただきました。まず、整備計画道路として、二十四路線を重点的に、段階的に整備するよう決定し、進められていること。次に、あと五年ほどで、交通道路網が大きく変わるはず、との期待もてるお話でした。その概要は次のとおり。

今回のテーマでもある東台地区のバイパス計画については、

- ①このバイパスは、豊町東台線、有浦東台線の改良事業とし、東台郵便局交差点から北へ進み、長木川をS字形に横断、樹海ラインに接続。
- ②来年度は測量を行い、平成十四年には一部開通(東台郵便局、長木川南岸・図の青い部分)。
- ③残りの東台、樹海ライン間は、

平成十五年ごろまでには工事を着手させたい。早期完成に努めてもらいたいものです。

- ①大館環状道路の整備では、中心市街地への通過車両の流入排除、中心市街地内の移動性の向上などを目的に外環状、内環状道路の形成を積極的に推進する。
- ②大館南バイパス(池内、立花間)は、平成十年の完成を目指し、国道7号と接続させる。
- ③大館西道路は、国道7号との交差点部分を地下道とし、その南側で南バイパスに接続させて、外環状道路の機能を充実させる。
- ④大館駅・東大館線は、市立病院、東大館駅間が平成十三年に開通予定。また、大館駅前貫通には、松木踏切の立体化及び小坂鉄道の線路の再編が必要だが、関係者の同意、合意が得られ、道が開けたので、平成十一年には開通の予定。

紙面の都合で、二十四路線全部の説明をお伝えできないのが残念ですが、詳しい内容について知りたいかたには、都市開発課で教えてください。



他人ごとと思いがちかもしれませんが、この取材を通して、大館も時代的に大きく脱皮する機会に達したことを知り、今後の変貌を大いに期待し、報告いたします。



館山課長から話を聞く中嶋リポーター(右)